

テレビのお勧め受信方法



テレビを視聴する3つの方法

テレビを視聴する為には一般的には3つ方法があります。

- ① アンテナ
- ② ケーブルテレビ
- ③ ひかりTV

結論から申し上げますと、時代的にみて光テレビが有力です。

視聴できる地域が限られますが、光テレビはメリットが多いです。

それでは、それぞれの特徴について説明します。

アンテナを設置して視聴する方法

UHFアンテナを屋根に設置したり、電波の強い地域では室内用アンテナ設置したりする視聴方法です。

メリット

ランニングコストがかかりません

デメリット

アンテナ取付費として 35,000 円～65,000 円ほど掛かります。

ビルなどの遮蔽物があると受信できない可能性がある

悪天候時に電波障害で受信できなくなる可能性がある

台風などで故障する事がある。



デザインアンテナ



八木式アンテナ



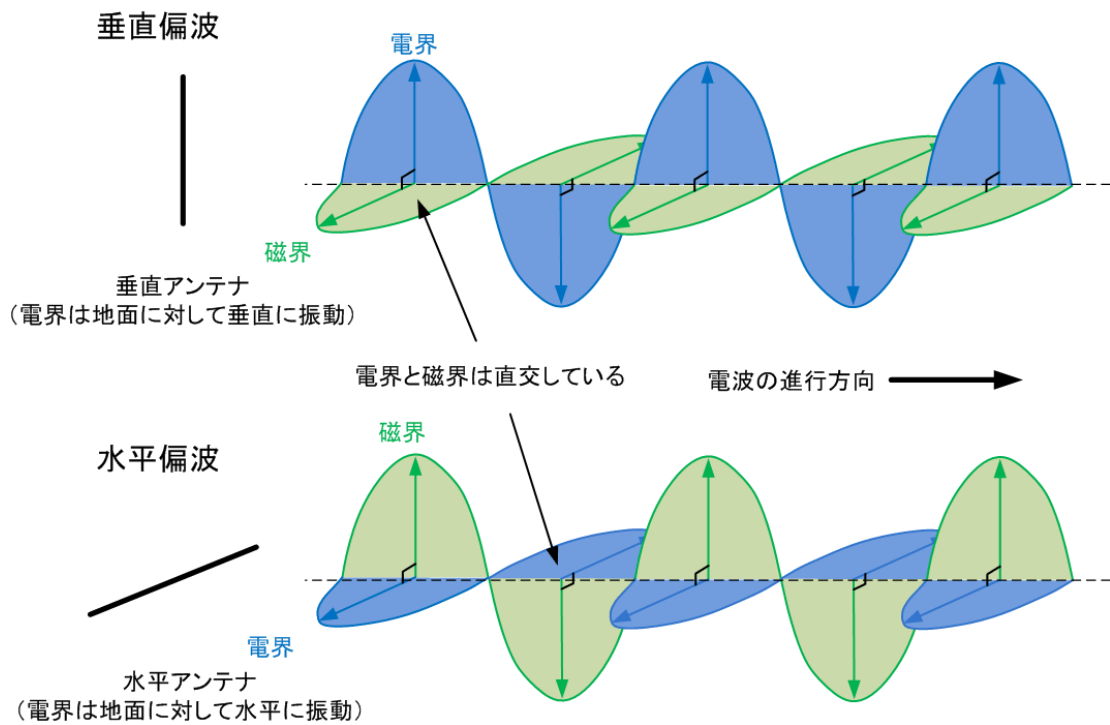
室内アンテナ

詳細情報（読み飛ばしてください）

水平偏波と垂直偏波

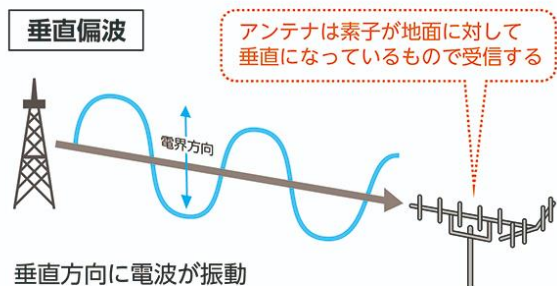
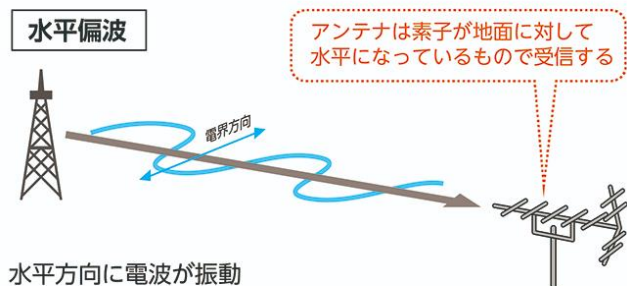
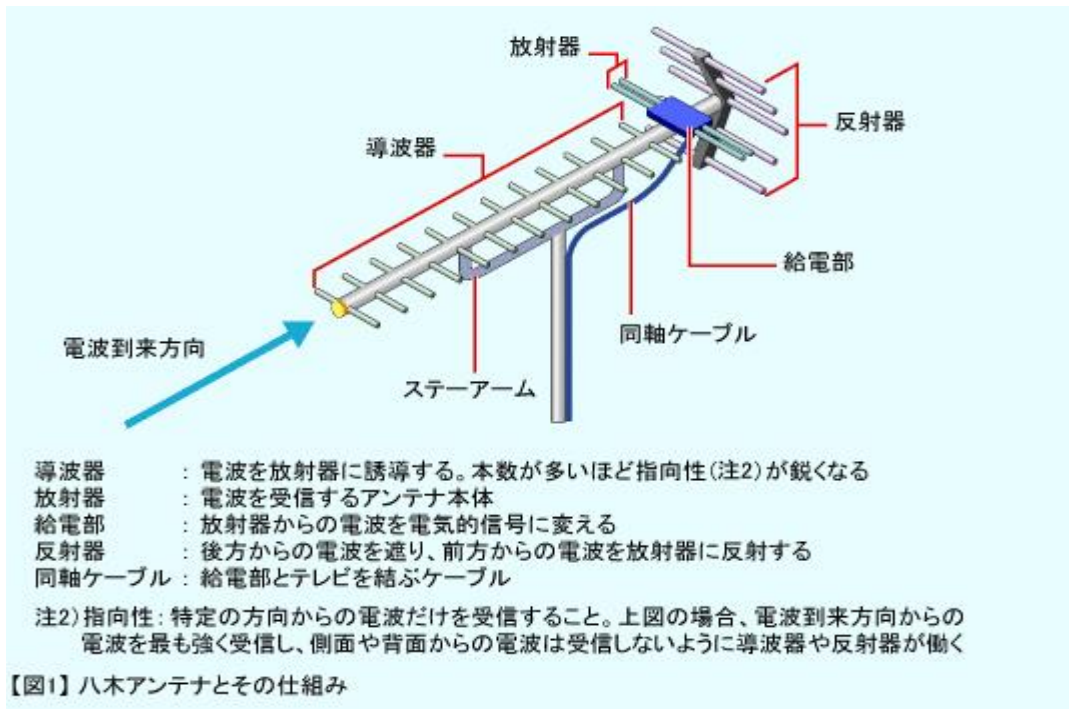
UHF 放送では混線を防ぐ為、水平偏波(全体の 95%)と垂直偏波の2種類があります。

各送信局がどちらの偏波を使っているかは、送信局の情報を確認してください。



アンテナの種類

八木式



デザインアンテナ



八木アンテナ(株)
「UwPA(ウーパ)」



マスプロ電気(株)
「TopTen」

【図2】 地デジ対応テレビ用アンテナの一例

ブースター



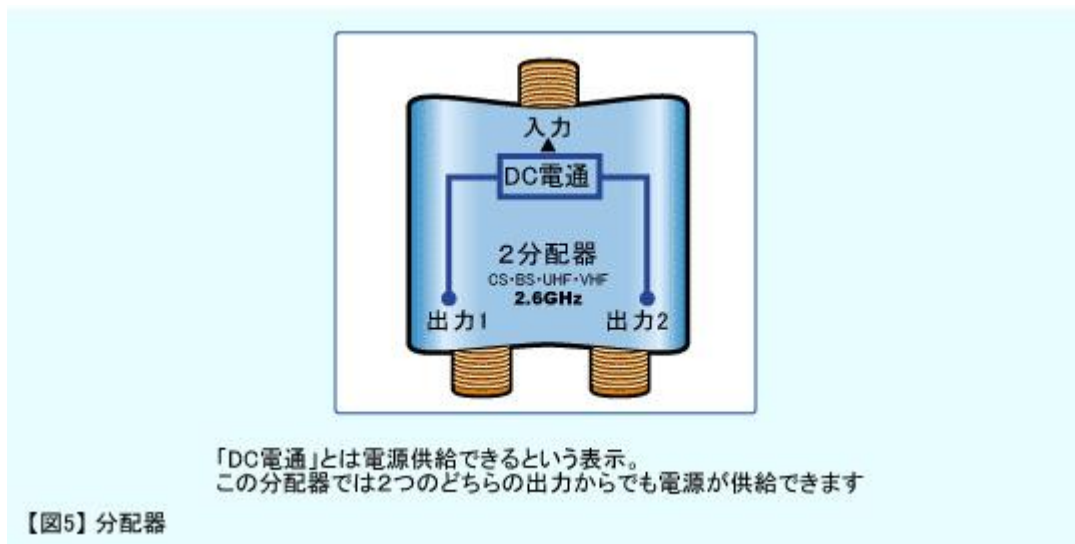
アンテナで受信した電波を増幅する装置です。プリアンプとも呼ばれます。通常はアンテナの下や屋根裏などに設置され、あまり目にすることはありません。

電波は届いているが弱い、または1本のアンテナから多くのテレビに信号を分配する、アンテナとテレビを結ぶ配線が長い場合などに設置します。

電波が強い場所にブースターを設置すると、電波の強い放送局の信号がより大きく増幅され、その影響で近いチャンネルの弱い放送局が受信しにくくなる場合がありますので、取り付けておけば良いというわけではありません。

地デジでは、放送局からテレビなどへ常にファームウェアのアップデート信号などを送っています。そのため、テレビとブースターの電源が連動するようになっていると、テレビの電源をオフにしたときに、ブースターが働かず信号を受信できなくなります。そのために地デジのブースターは24時間電源オンにしておく必要があります。

分配器



リビングルームのテレビや HDD レコーダ、子供部屋のテレビなど、1本のアンテナで受信した信号を複数のテレビや録画機器に分配するときに使うのが分配器です。家の中の部屋ごとにアンテナのコンセントが用意されていたりしますが、これらは天井裏などに設置された分配器によって、屋外のアンテナからの同軸ケーブルが分配されたものです

信号は分配した分だけ弱くなります。極端な場合、2つに分配するだけでそれまで視聴できていた一部のチャンネルが視聴できなくなることもあります。

分配器は便利ですが、別の分配方法もあります。同じ部屋の中で、壁のアンテナコンセントからテレビ、HDD レコーダ、チューナーなどに配線する場合です。それらの機器のアンテナ入力と出力端子を数珠つなぎに配線する方が、分配器を使うよりも有利なことがあります。こうした機器のアンテナ入力端子と出力端子の間には LNA (Low Noise Amp、低雑音アンプ) と呼ばれる増幅器が入っており、入力・出力端子間で信号が弱められることがないので、チューナーを増設したら一部のチャンネルが観られなくなったという場合には配線方法を検討してみるとよいかもしれません。

ケーブルテレビ（CATV）で地デジ・BS・その他の放送を見る

ケーブルテレビの月額料金

平均すると 2,000 円～5,000 円程度になります。

メリット

アンテナ工事不要

天候に左右されにくい

インターネットとのセット割で料金が安くなる

視聴できる番組が地デジと比べて大幅に増える

プロバイダ契約が必要なし→フレッツ光などは、プロバイダ契約に毎月 1,100 ほどかかる

デメリット

STB が必要なケーブルテレビ局の場合、テレビ1台毎に STB が必要になる。→下記詳細情報に参照

天候に左右される事もある

光テレビに比べて料金が高い

インターネットの速度が遅い

複数のテレビにつなぐのには分配器が必要

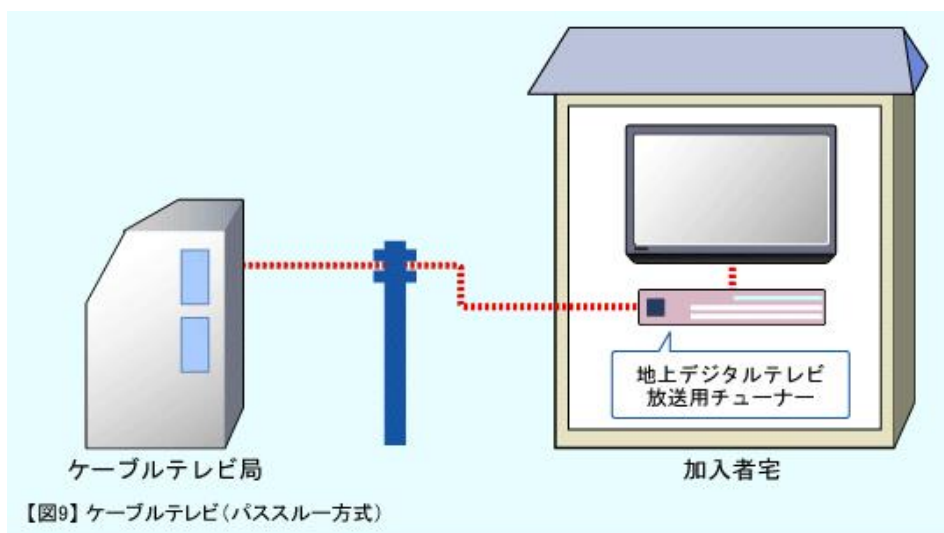
詳細情報（読み飛ばしてください）

ケーブルテレビを通してデジタル放送を受信することもできます。以下のような2つの方式があり、ケーブルテレビ局によって必要な機器が異なります。現在のところ契約者がどちらかを選択できません。

パススルー方式

ケーブルテレビ局が受信した電波をそのまま伝送する方式です。契約者は地上デジタル対応テレビやデジタルチューナーなどを用意し、ケーブルテレビからの出力をアンテナ端子に接続します。

地形や建物の関係で地デジが受信できない場合やアンテナを設置できない場合に、安定し



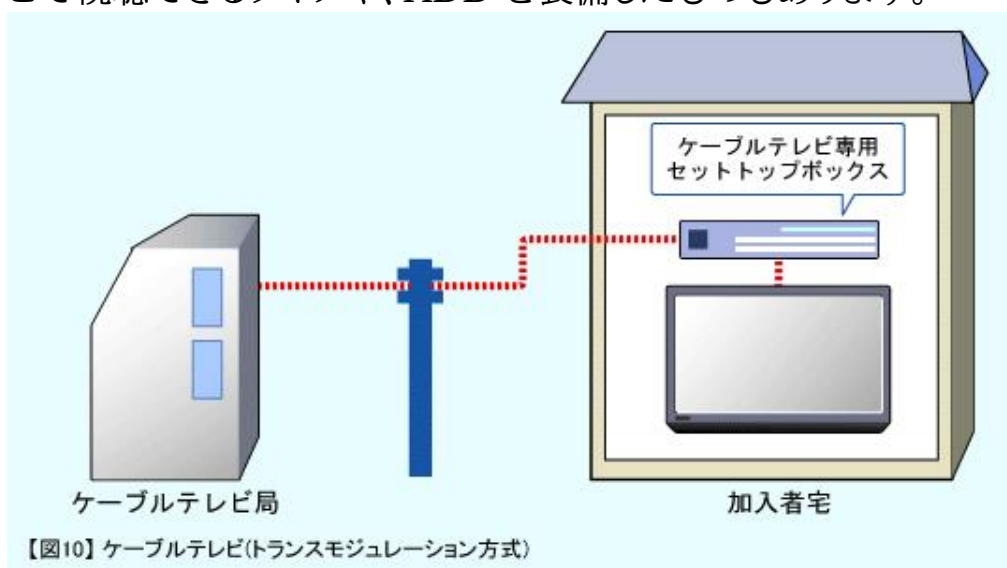
た電波を受信できます。アンテナ端子に複数のテレビなどを接続できるのもこの方式のメリットです。

トランスモジュレーション方式

ケーブルテレビ局が地デジの信号を変換して送信し、契約者宅の STB でテレビ放送の信号に戻します。

STB(Set Top Box)とは、送られてくる信号を、一般のテレビで受信できる信号に変換する装置です。

アナログテレビで視聴できるタイプや、HDD を装備したものもあります。



ひかりTVで地デジ・BS・その他インターネットなどを利用する

メリット

アンテナ工事不要

初期費用が安い

チャンネル数が多い

天候に左右されない

インターネット、電話、テレビ等をまとめて契約可能

ケーブルテレビに比べて費用が安い

デメリット

利用できる地域が限られる

工事が必要である(戸建=2万~4万円程度、集合住宅の場合は2万円~3万円程)

開通までに1週間から2か月ほど時間がかかる

最低利用期間内に解約すると違約金が発生する。